

| 項目名 | 役割 | 行動指針 | 実施時期 |
|-------------|----|------|------|
| アニマルファミリー制度 | - | 1 | 20年度 |

概要

これまでの「動物園で飼育されている動物を見に行く」という考えから「わたしの動物を動物園に預かってもらっている」「わたしの動物がいる動物園に会いに行く」という動物園と入園者の関係性の転換を行うことを目的とし、市民が動物との絆をむすび動物への理解を深めるため、個別の動物毎の情報をきめ細かく発信する「アニマルファミリー制度」を構築する。

市民が個々に選択した特定の動物について、あたかも家族のように深く知り学べる仕組みづくりを行い、資金面においてもエサ代などをファミリーが負担する体制を構築する。また、ファミリーが対象動物のプロデュースを飼育員と一緒に考えたり、PRと一緒にするなど参加型の展開に発展させていく。

<サービスの内容>

- ・定期的なニュースレターの送信(情報発信)
- ・誕生日イベントなどへの招待
- ・園内にファミリーのお名前を掲示
- ・その他 動画の配信など新サービス順次拡大

スケジュール

2008年(平成20年)2月 試行実施 募集開始
 2008年(平成20年)4月 運用開始、対象動物を順次拡大

参考図表等

- ・対象動物
最終的に愛称のついている動物全てに拡大する。
- ・アニマルファミリーの資格
個人もしくは法人単位とする。
- ・アニマルファミリー料金の使途
ファミリーが負担した金額は全額動物たちのエサ代として寄付の扱いとする。
通信費・イベント経費は動物園の負担とする。
- ・料金設定(一口あたり/年間)
個人 大人5,000円、小人2,000円
法人 10,000円

| 項目名 | 役割 | 行動指針 | 実施時期 |
|------------------------|----|------|------|
| 感動体験型展示(みんなのドキドキ体験)の実施 | 1 | 2 | 18年度 |

概要

円山動物園では、ただ通り過ぎる動物園ではなく、お客様がゆっくりとくつろぎ、体験や感動を通じて「いのちの大切さ」や「動物たちの生息域における環境問題」を学んでいただく独自の展示法として段階的展示導入方式(円山メソッド)を採用している。
これに基づき、単なる動物展示ではなく、定期的に「みんなのドキドキ体験」と称して各種体験プログラムを提供する。
動物たちの行動を間近で見たり、エサやりなど直接ふれあうことで、感動とともに高い学習効果を狙う。

<みんなのドキドキ体験メニュー例>

- エゾモモンガ「タロウ」の飛翔訓練
日本で唯一ここだけで見られるエゾモモンガの飛ぶ姿と自然破壊のメッセージ
- 猛禽類のフリーフライトと鷹匠体験
トビやシロフクロウが手にとまる鷹匠体験と生態系保護のメッセージ
- チンパンジー「レディ」のミルクタイム
人工哺育中「レディ」の群れ復帰訓練の経過報告といのちの大切さを伝えるメッセージ

スケジュール

2006年度(平成18年度) 31種類実施
2007年度(平成19年度) 32種類実施 ※体験メニュー数日本最多

体験メニューは、園内看板、園内放送、携帯サイト、ホームページで毎日告知

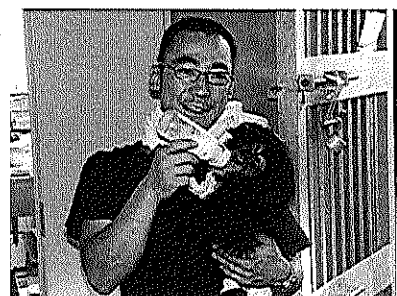
参考図表等



飼育員による解説が人気
「ニホンザルの主食タイム」



生態系の頂点にある猛禽類の
「フリーフライトと鷹匠体験」



事故で母親を亡くしたチンパンジー
「レディのミルクタイム」

| 項目名 | 役割 | 行動指針 | 実施時期 |
|-----------|----|------|------|
| 北海道ゾーンの展開 | 2 | 1 | 19年度 |

概要

地元である札幌、北海道の動物、円山の自然に生息する動物にもスポットをあて、私たちにとって身近なところから環境問題を考えるきっかけにするため、「北海道(北方圏)ゾーン」を設ける。同時に、観光に訪れる方々にも北海道の自然の素晴らしさを体験してもらえる場にする。
地元重視の展示により、人と野生動物との関係や歴史を解説するとともに、地元の自然を守ることを啓発し、故郷への愛着を涵養する。

スケジュール

2007年度(19年度) オオカミ解体、シカ・トナカイ解体、オオカミ・シカ舎新設(絶滅したエゾオオカミの歴史的事実、北海道のエゾシカの保護管理計画と現状についてのメッセージ発信)
2010年度(22年度) ヒグマ舎新設(ヒグマと人間の生活との共存についてのメッセージ発信)
2011年度(23年度)以降
世界の熊館改修
第2ホッキョクグマ舎建設(地球温暖化への警鐘)
海獣ペンギン館建設、旧海獣舎解体

参考図表等

| |
|--|
| |
|--|

| 項目名 | 役割 | 行動指針 | 実施時期 |
|------------|----|------|------|
| 市民参加の機会の拡大 | - | 1 | 18年度 |

概要

「市民が支え、市民がつくる、市民が主役の動物園」を実現するため、市民一人ひとりが楽しみながら様々なかたちで自分なりに動物園に関われる機会をつくる。
このことを通じて、より動物や円山動物園に対する親近感が醸成され、「市民に愛され、自慢していただける円山動物園」となることを目指す。

<具体的な参画機会>

- ・寄付(19年10月～寄付募集のホームページを掲載)
- ・ボランティア(ガイドボランティアを随時募集)
- ・市民動物園会議の委員を市民公募(3名、19年8月委嘱、任期2年)
- ・子どもワークショップ(「子ども調査隊」18年12月実施)
- ・看板制作(札幌市立幌南小学校6年生制作、27枚設置)
- ・オオムラサキ越冬幼虫生息調査(18年11月～、専門学校生等)
- ・スノーフェスティバル氷のすべり台等制作ボランティア(19年2月～、町内会、青年会議所等)

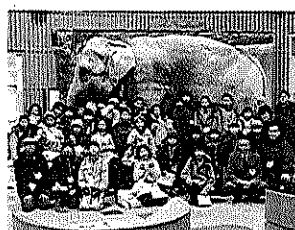
スケジュール

随時実施

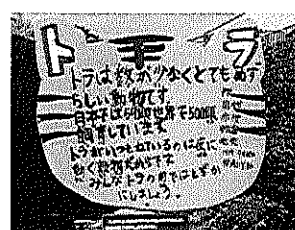
参考図表等



ボランティアの日



子ども調査隊



小学生の手づくり看板



オオムラサキ調査

| 項目名 | 役割 | 行動指針 | 実施時期 |
|----------|----|------|------|
| 産学官連携の拡大 | - | 1 | 18年度 |

概要

事業の展開にあたっては、企業・大学等研究機関との連携により相乗効果やメリットを創出するよう産学官連携を進めていく。

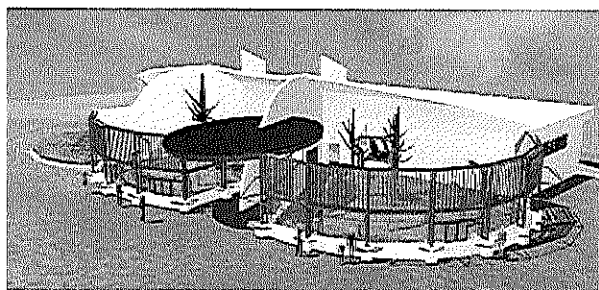
＜具体的な連携機会＞

- ・企業広告、寄付の導入
ホームページバナー広告及び寄付ページ(19年10月実施済)
- ・イベントにおける連携
イベント用マイク設備の寄贈、実物大タペストリー制作費の寄付(18年度実施済)
ふれあいイベントへの酪農学園大学ボランティア(19年度実施済)
- ・オリジナルグッズの開発
木のZOO(動物積み木)における札幌市立高等専門学校と民間企業の共同開発
その他公認グッズにおける民間企業との共同開発(随時)
- ・共同研究
アニマルセラピーに関する札幌市立大学看護学部との共同研究(19年度～)
- ・園内の総合デザイン
サイン、動線、動物舎デザインにおける札幌市立大学デザイン学部との連携

スケジュール

随時実施

参考図表等



感性工学に基づく類人猿館の改修

アニマルセラピーに関する共同研究(声明)

<http://www.city.sapporo.jp/zoo/others/animaltherapy.html>

| 項目名 | 役割 | 行動指針 | 実施時期 |
|-----------------|----|------|------|
| オオワシ国際シンポジウムの開催 | 2 | 2 | 20年度 |

概要

2008年7月の洞爺湖サミットに合せ、オオワシ国際シンポジウムを開催し円山動物園のオオワシプログラムの取り組みを世界に発信するとともに、釧路のタンチョウ、札幌のカムバックサーモン運動などの地域の生態系を守るための取組みの紹介と啓発を行う。また、オオワシ放鳥に向けて関係国間での協力体制を構築する。

オオワシの営巣地であるロシア政府(サハリン州)や環境省、研究活動団体、道内動物園等との協力により、広く取り組みをアピールし、「北海道の野生動物復元プロジェクト」の成功に資する。

<シンポジウム概要>

1. パネルディスカッション

円山のオオワシ、釧路のタンチョウ、カムバックサーモン運動などの地元生態系を守る取組みと環境保全の必要性を訴える。

2. 紙上シンポジウム

その概要を紙上掲載して広く告知、PRを行う。

スケジュール

2008年(平成20年)6月末開催

参考図表等



円山動物園が国内初の繁殖実績をもつ希少種オオワシ



タンチョウ

| 項目名 | 役割 | 行動指針 | 実施時期 |
|-----------------|----|------|------|
| オオワシ・プログラムの取り組み | 2 | 2 | 19年度 |

概要

■北海道野生動物復元プロジェクト(オオワシプログラム)

北海道に生息する希少猛禽類のオオワシやシマフクロウを、円山動物園の持つ繁殖技術で繁殖させ、鷹匠技術で飛行訓練等を行い、自然界に放鳥・野生復帰させる取組み。

毎年一定数のオオワシやシマフクロウを繁殖させるための繁殖用ケージと飛行や狩の訓練をするためのトレーニングケージを建設。これに並行して放鳥に必要な協力体制の構築、手続き等の準備を進め数年後の放鳥を目指す。

なお、オオワシはサハリン北部やアムール川河口地域で繁殖し、北海道に飛来する渡り鳥である。このため、円山動物園生まれのオオワシはサハリンで放鳥する必要があり、環境省だけではなくロシア政府との調整が必要となる。シマフクロウともども、環境省の「希少猛禽類増殖計画」と調整のうえ実行していく。また、野生下で保護された傷病個体の自然復帰も並行して行う。

スケジュール

<国内繁殖個体>

2007年度(平成19年度) 環境省、ロシア政府、研究者との意見交換、調整

2008年度(平成20年度) 繁殖用・訓練用ケージの建設、サハリン協力体制の構築、放鳥計画の策定

2009年度(平成21年度)以降 条件が整い次第、放鳥の許可申請、繁殖開始、放鳥

<保護個体>

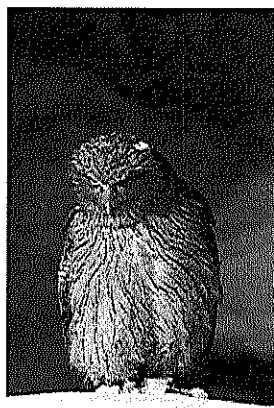
2007年度(平成19年度) 保護個体の治療、飛行訓練

2008年度(平成20年度)～ 放鳥

参考図表等



オオワシ



シマフクロウ

| 項目名 | 役割 | 行動指針 | 実施時期 |
|-------------------|----|------|------|
| オオムラサキ・プログラムの取り組み | 2 | 2 | 19年度 |

概要

■北海道の野生動物復元プロジェクト(オオムラサキ・プログラム)

北海道の中でも開発が進んだ札幌市においては特に野生動物の減少が著しい状況にある。札幌の原風景にあったオオムラサキやオニヤンマ、トノサマバッタなどの昆虫類を復元。親子でこれらを観察する体験イベントなどを企画し、動物園を世代間の絆づくりの場としてもさらに活用していく。自然への復元作業を市民・企業・大学等他の研究機関と連携して実行するとともに、自然の生態系との調和や復元作業自体を市民に普及する。事業の展開にあたっては、すでに活動している市民だけではなく、新たに行動しようとしている市民の参加を促すとともに、企業等の参画も含め、まさに市民ぐるみの運動へと発展させる。

<具体的な活動内容>

国蝶オオムラサキの園内自然繁殖支援(エゾエノキ植樹、越冬幼虫観察・保護)
 乾性ビオトープにおけるトノサマバッタ、キリギリスの繁殖
 樹林ビオトープにおけるミヤマクワガタの繁殖
 湿性ビオトープにおけるオオルリボシヤンマの繁殖

スケジュール

2007年度(平成19年度) ビオトープ協議会設立、基本設計、オオムラサキ園内生息調査、観察会
 2008年度(平成20年度) 幼虫の食樹エゾエノキの苗育成、展示用エゾエノキの鉢整備、ビオトープ造成
 2009年度(平成21年度) エゾリス等小型哺乳類の繁殖調査、ビオトープの管理運営
 2010年度(平成22年度)以降 エゾエノキの植樹、小型ほ乳類の繁殖

参考図表等



20数年前に当時の職員が植樹したエゾエノキに2006年になって初めて発見された園内自然繁殖個体(準希少種オオムラサキ)

| 項目名 | 役割 | 行動指針 | 実施時期 |
|--------------------|----|------|------|
| ニホンザリガニ・プログラムの取り組み | 2 | 2 | 19年度 |

概要

■北海道の野生動物復元プロジェクト(ニホンザリガニ・プログラム)
 札幌の原風景にあったニホンザリガニを市民参加により復元。親子でこれらを観察する体験イベントなどを企画し、動物園を世代間のきずなづくりの場としてもさらに活用していく。また、ウチダザリガニやアメリカザリガニといった外来性ザリガニの増殖の問題を市民に訴えていく。
 自然への復元作業を市民・企業・大学等他の研究機関と連携して行い、自然河川の生態系の調和や復元作業自体を市民に普及する。
 事業の展開にあたっては、すでに活動している市民だけではなく、新たに行動しようとしている市民の参加を促すとともに、企業等の参画も含め、まさに市民ぐるみの運動へと発展させる。

<具体的な活動内容>

ニホンザリガニの園内自然繁殖支援(園内円山川流域における生息調査、個体繁殖)

スケジュール

2007年度(平成19年度) ビオトープ協議会設立、基本設計、ニホンザリガニ生態調査、ザリガニ展示
 2008年度(平成20年度) ザリガニ関係会議、ニホンザリガニ増殖計画策定
 2009～2011年度(平成21～23年度) ニホンザリガニ増殖
 2012年度(平成24年度～) ニホンザリガニ放流

参考図表等

ニホンザリガニ

外来種ウチダザリガニ

外来種アメリカザリガニ

| 項目名 | 役割 | 行動指針 | 実施時期 |
|-------------------------------|----|------|------|
| 生物多様性を身近に感じるための特別展・体験プログラムの実施 | 1 | 2 | 18年度 |

概要

豊かな自然と整然とした都会の中間地点にある優位性を活かし、円山原始林、円山川と動物園の有機的連携を図り、園内で地元の動物の生態を学んだあと、そのまま原始林に入って自然の動植物を観察したり、園内を流れる円山川で自然の昆虫やザリガニなどに触れたりなど、自然を生かした施設整備を行い、園内各所にビオトープを設置して「自然体験ゾーン」として自然体験学習のメッカとする。体験プログラムの実施は、市民・企業・NPO・大学・研究者と共同で行う。

＜展開事例＞

- ・昆虫学覧会(17年度)
北海道新聞社、JTBの主催による昆虫展。昆虫クイズラリーで円山公園の森を探検
- ・円山自然塾(18年度)
NPO法人ねおすによる円山登山道の散策と円山に生息する生き物を学ぶセミナー。
- ・円山昆虫研究所(19年度)
JTB北海道との共催による昆虫展。昆虫調査隊で園内の昆虫を探索・解説

スケジュール

18年度～実施済

＜主な開催日＞

- ・円山自然塾 2007年(平成19年)3月4日(日)・18日(土)・25日(土)
- ・円山昆虫研究所 2007年(平成19年)7月20日(金)～8月19日(日)
- ・オオムラサキの特別公開 2007年(平成19年)7月20日(金)～8月19日(日)
- ・園内樹木マップの整備 2007年(平成19年)10月12日(金)
- ・ビオトープ協議会主催による観察会 2007年(平成19年)10月27日(土)
- ・北海道の野生ネズミ展 2007年(平成19年)12月15日(土)～2008年1月27日(日)

参考図表等



円山自然塾 散策の様



道内に生息するトウキョウトガリネズミ